

2022年3月期第1四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役 専務執行役員 CFO

2021年7月29日



本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

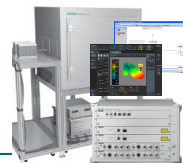
目 次

1. 事業概要
2. 2022年3月期第1四半期 連結決算概要
3. 2022年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ▶ モバイル市場 : 5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 基地局建設保守、電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心



- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機

その他



▶ 環境計測

▶ センシング
& デバイス



(セグメント別売上比率)

2021年3月期 実績（連結）：1,059億円

通信計測 71%			PQA 20%	その他 9%
モバイル 59%	ネットワーク・インフラ 25%	エレクトロニクス 16%		

2022年3月期1Q 実績（連結）：238億円

通信計測 71%			PQA 21%	その他 8%
モバイル 56%	ネットワーク・インフラ 25%	エレクトロニクス 19%		

(通信計測事業 地域別売上比率)

2021年3月期 実績

日本 18%	アジア他 47%	米州 23%	EMEA 12%
--------	----------	--------	----------

2022年3月期1Q 実績

日本 16%	アジア他 46%	米州 23%	EMEA 15%
--------	----------	--------	----------

通信計測事業：旧T&M事業 PQA：Products Quality Assurance

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比減収減益も通期予想に対する受注進捗は計画通り

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	290	281	△ 9	△ 3%
売上高	257	238	△ 19	△ 7%
営業利益	51	31	△ 20	△ 40%
税引前利益	51	31	△ 20	△ 40%
当期利益	35	21	△ 14	△ 41%
当期包括利益	37	23	△ 14	△ 37%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測：5G開発需要は堅調に推移。一方で、半導体不足が売上に影響

▶ PQA：新型コロナウイルス感染症の状況が改善している地域での売上が回復

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	193	168	△ 25	△ 13%
	営業利益	49	29	△ 20	△ 42%
PQA	売上高	44	51	7	16%
	営業利益	1	4	3	173%
その他	売上高	20	19	△ 1	△ 6%
	営業利益	2	0	△ 2	△ 75%
調整額	営業利益	△ 2	△ 2	0	-
合計	売上高	257	238	△ 19	△ 7%
	営業利益	51	31	△ 20	△ 40%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

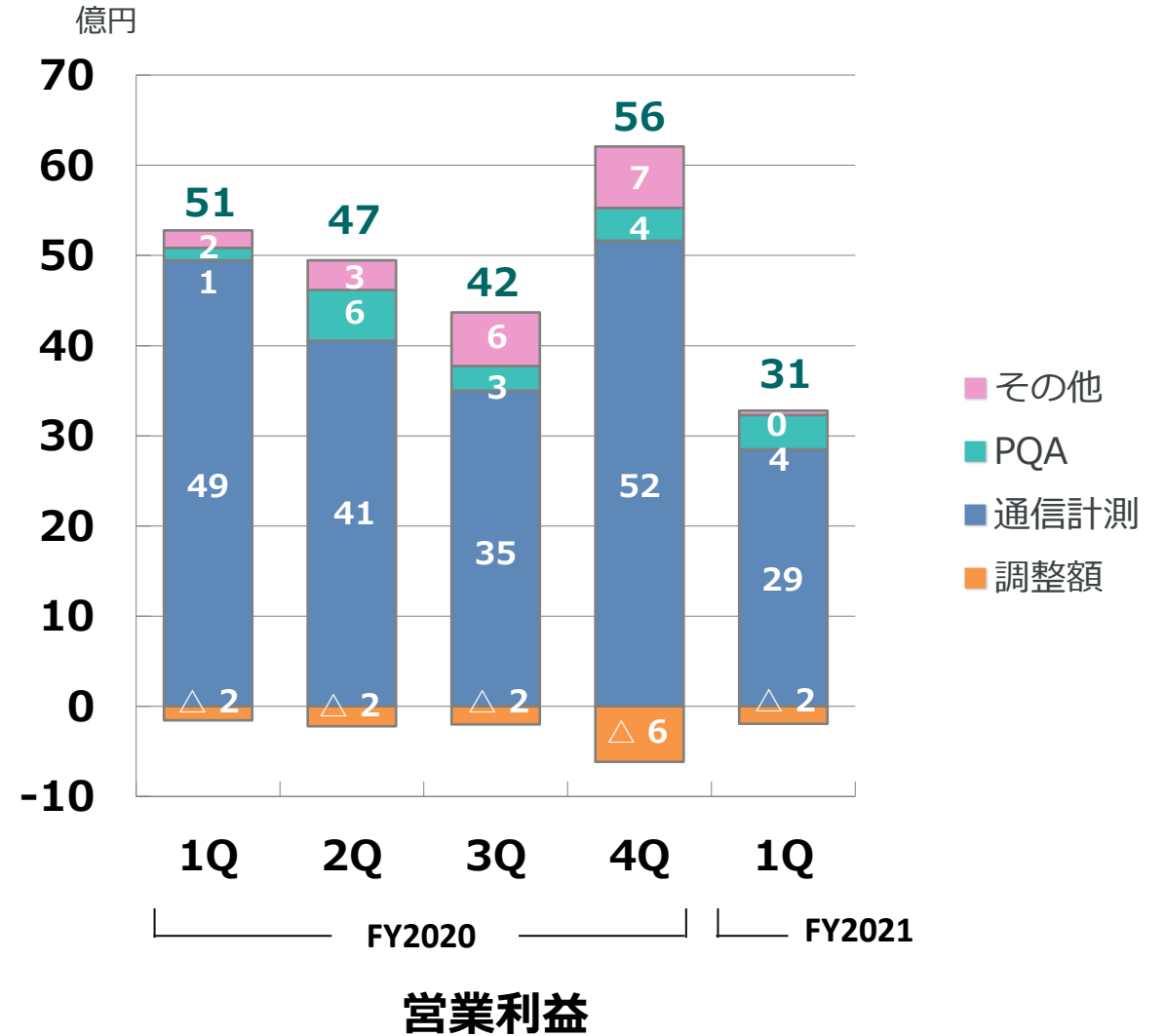
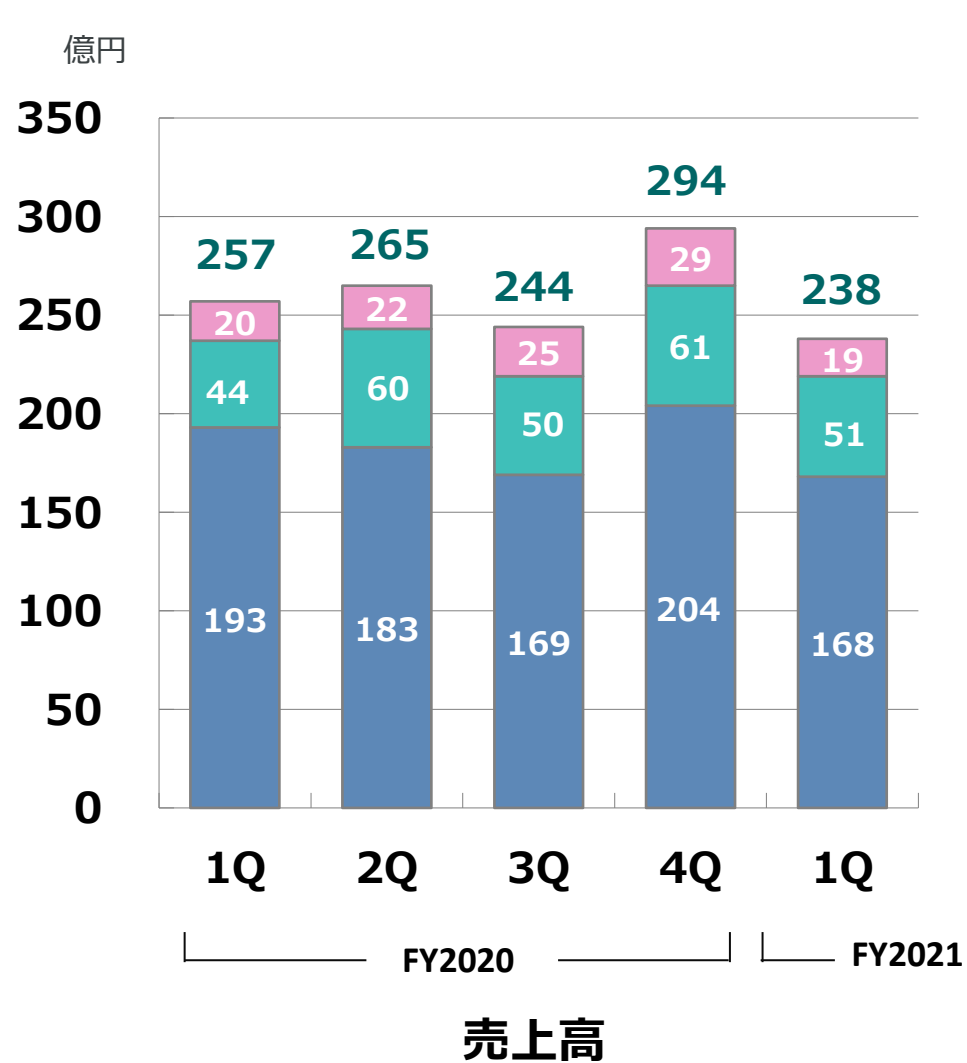
(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

通信計測事業：旧T&M事業

PQA：Products Quality Assurance

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 1Q(4-6月)営業利益率：連結 13%，通信計測 17%，PQA 7%



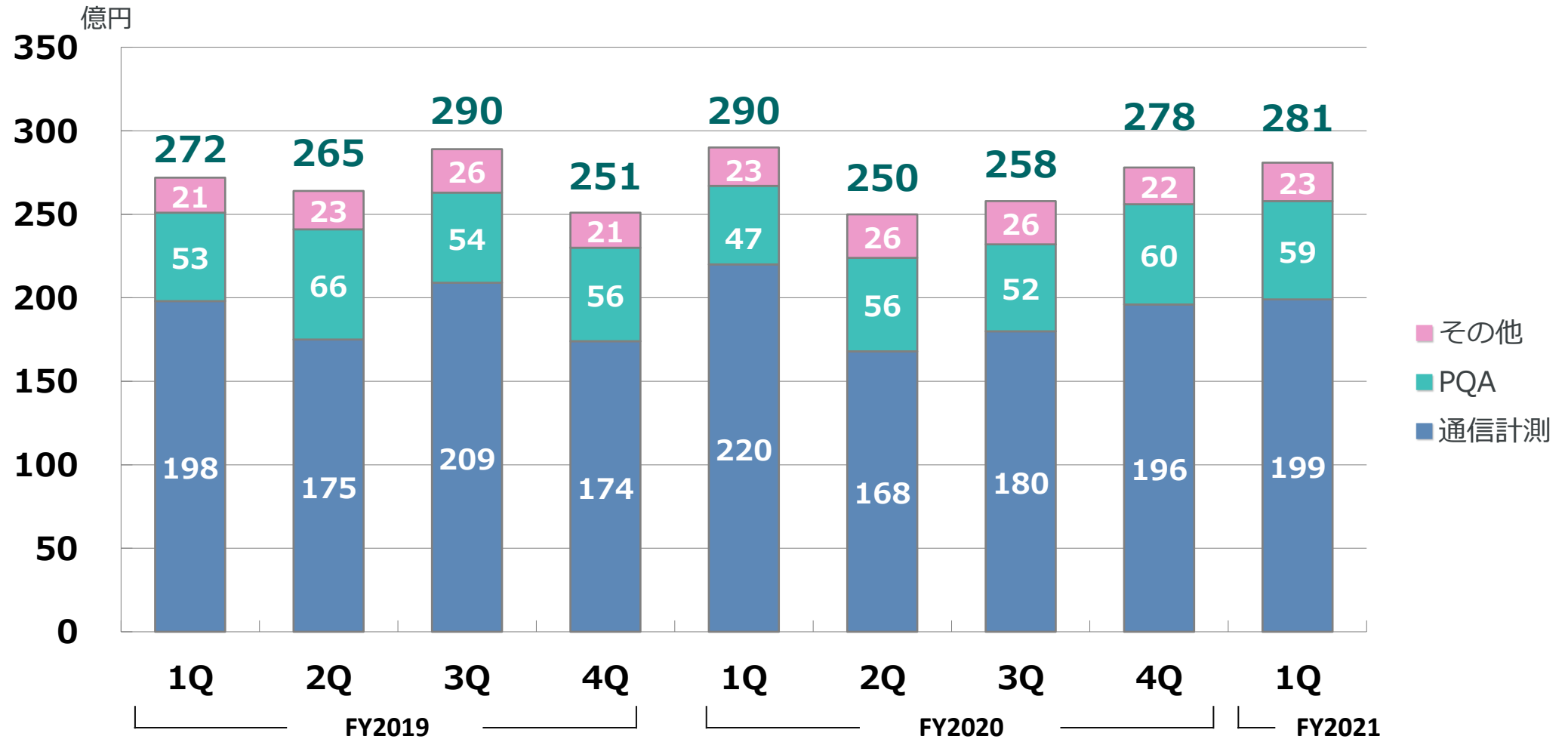
(注) 値はそれぞれで四捨五入

セグメント 2022年3月期（4月-6月）の状況	
 通信計測：5G商用化スケジュールおよびデータセンター高速化が順調に進展	
モバイル	5G開発の需要が順調に推移
ネットワーク インフラ	データセンター等への投資が順調に推移
アジア他・日本	5G商用化に向けた投資は堅調
アメリカ	今年後半からのSub6GHz（Cバンド）の基地局敷設による需要回復に期待
 PQA：アジアやアメリカ等、新型コロナウイルス感染症の状況が改善している地域の需要が回復	

2-5. 受注高推移

通信計測：前年同期比10%減、前四半期比2%増

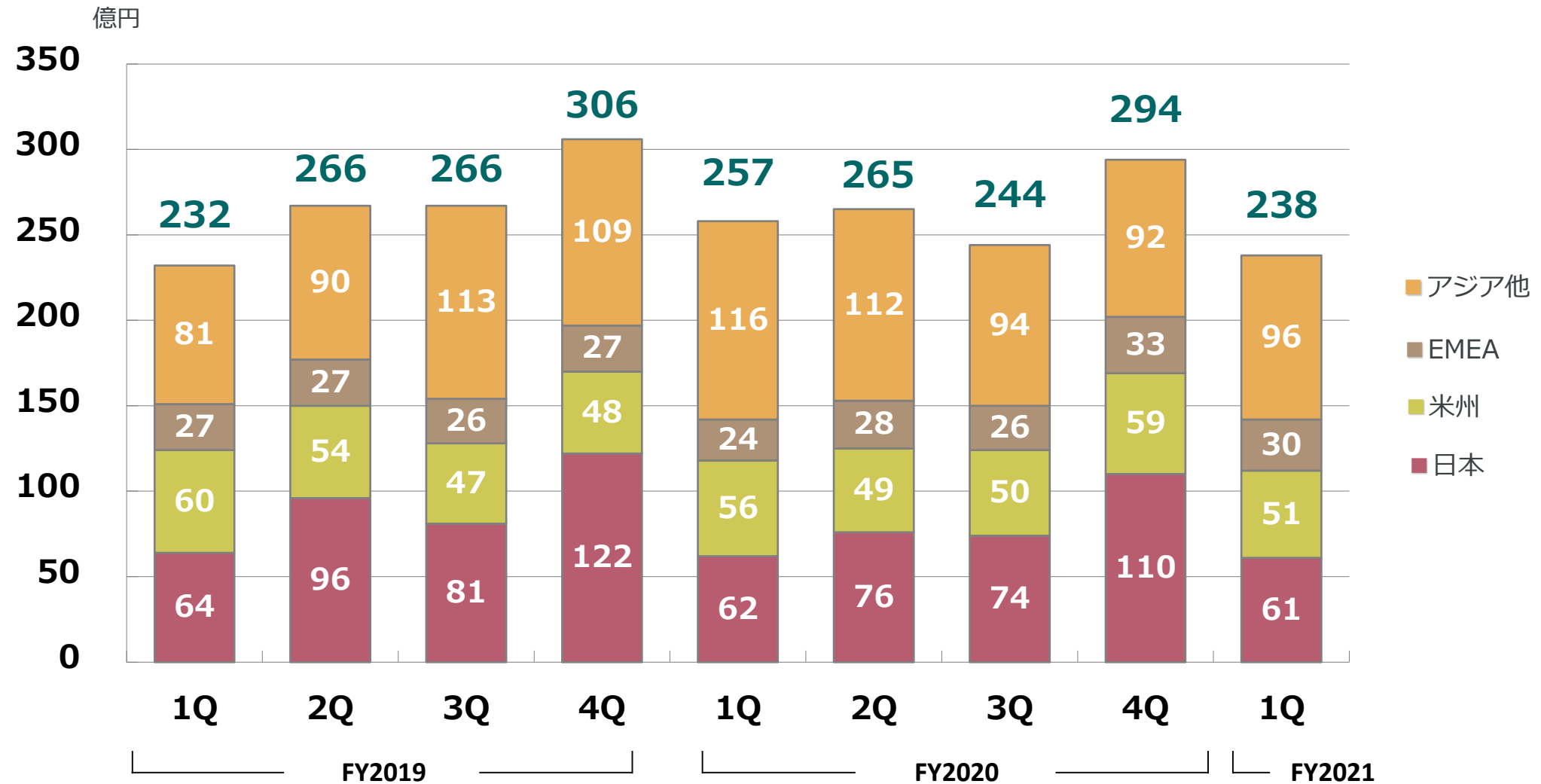
PQA：前年同期比25%増



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-6. 地域別売上高推移

▶ アジアの5G関連の需要は引き続き堅調



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率33.2%

FY2021 1Q

- ① 営業CF : 79億円
- ② 投資CF : △ 13億円
- ③ 財務CF : △ 36億円

フリーキャッシュフロー
(① + ②) : 66 億円

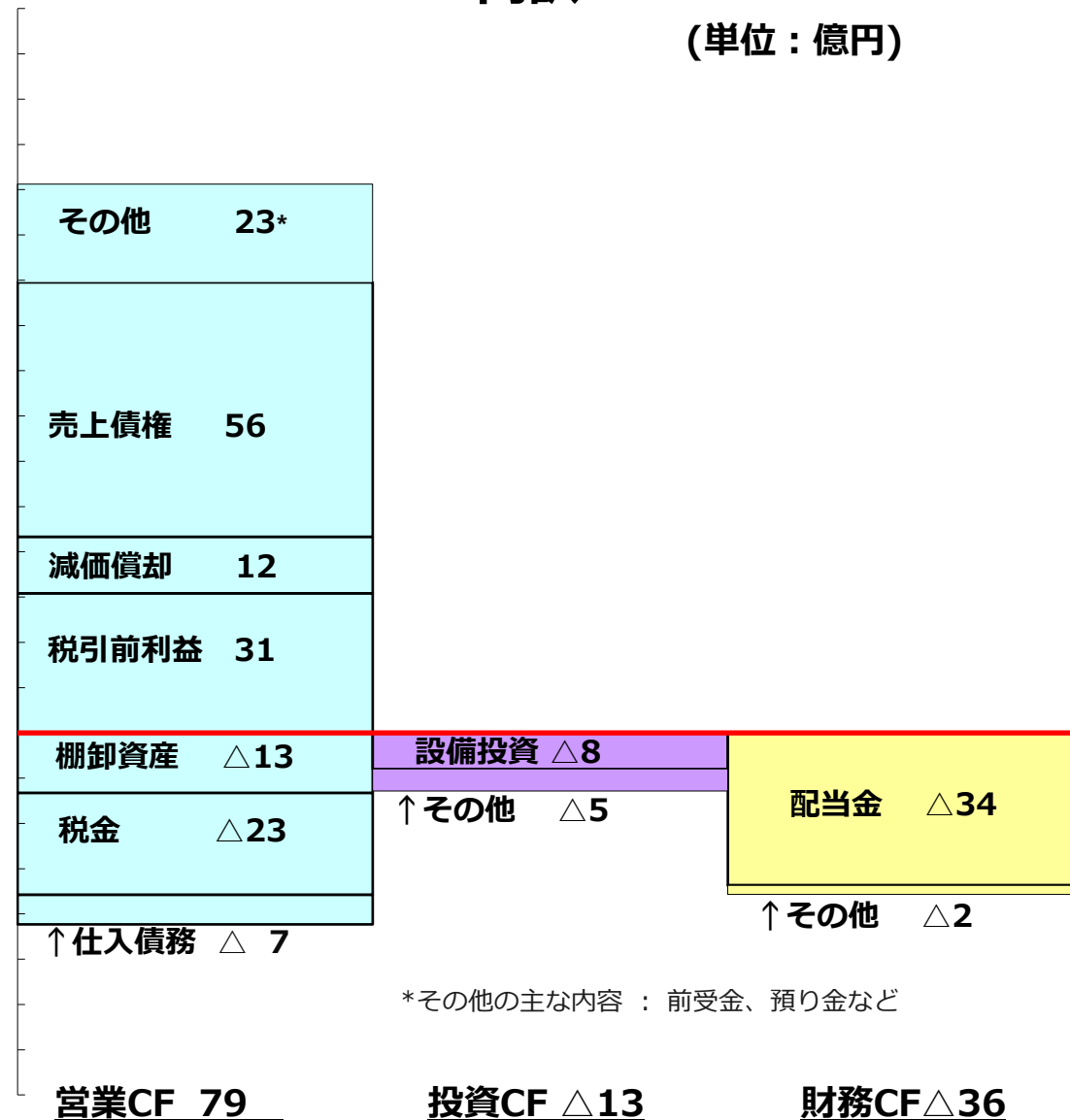
現金同等物期末残高
531億円

有利子負債高
58億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位 : 億円)



3. 2022年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 4月27日の公表値のとおり

（単位：億円）

			2021/3期	2022/3期	
			前期実績	通期予想	前年同期比 増減額 前年同期比 増減率(%)
売上高			1,059	1,140	81 8%
営業利益			197	205	8 4%
税引前利益			198	205	7 3%
当期利益			161	162	1 0%
通信計測	売上高		748	820	72 10%
	営業利益		177	185	8 4%
PQA	売上高		214	230	16 7%
	営業利益		13	18	5 34%
その他	売上高		97	90	△ 7 △ 7%
	営業利益		18	12	△ 6 △ 33%
調整額	営業利益		△ 12	△ 10	2 -

（参考）FY20 為替レート : 1米ドル106円、1ユーロ=123円
FY21 想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=125円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

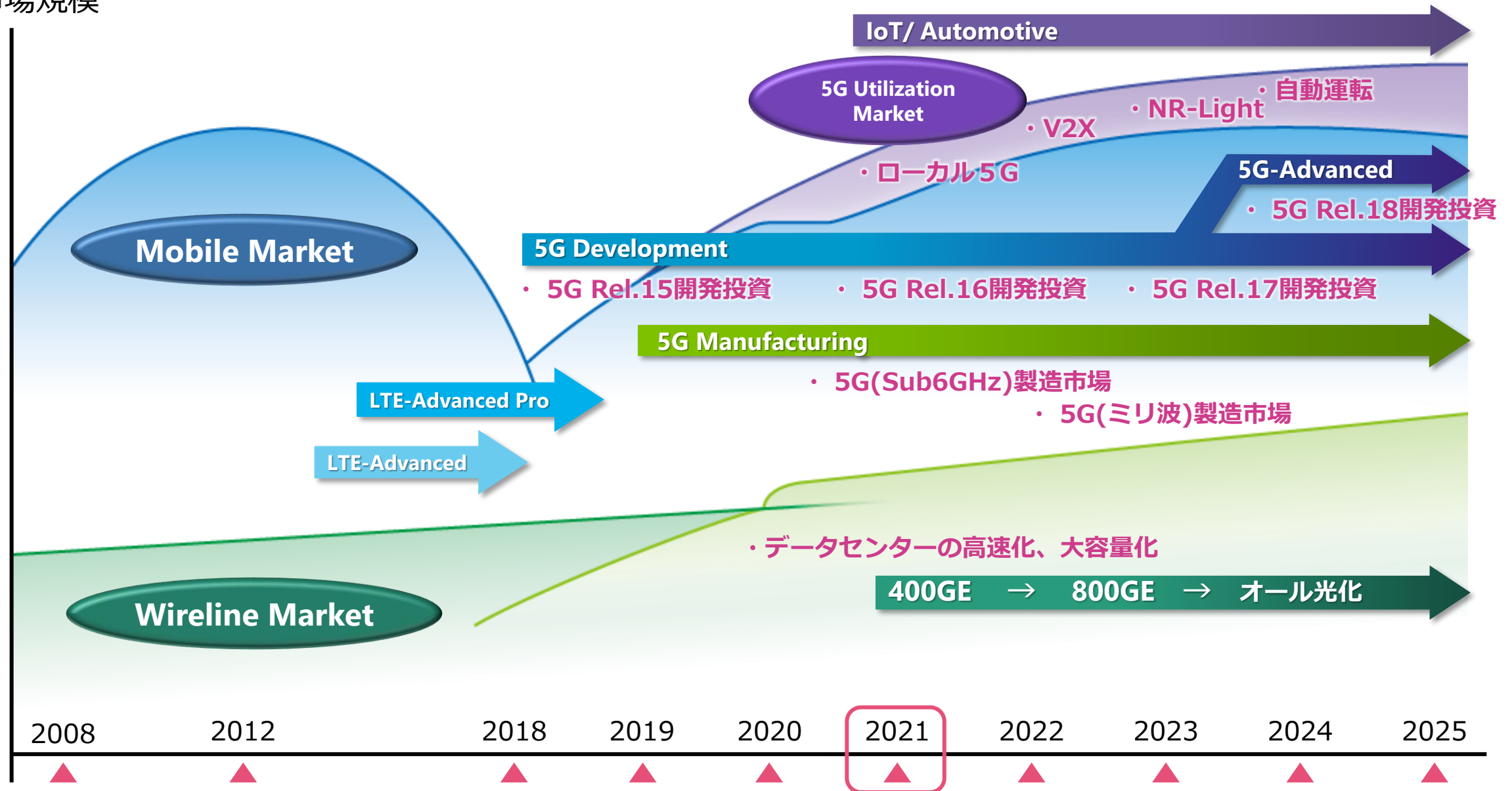
4. 当社の取り組みについて

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

4-1. 通信計測事業：計測市場トレンドと事業機会

市場規模



4-2.世界の5G状況



欧州

Sub6 : ヨーロッパの5Gカバレッジが上向き。
2021年3月末でEU27か国中24か国で5G
サービス開始
ミリ波 : イタリア、フィンランドなどで周波数の
オークションが完了



中国

5G加入者は4億5,000万人（2021年5月末）
Sub6 : 基地局は20年末77万局設置済、
2021年中に60万局の増設を計画
ミリ波 : 北京オリンピック会場でトライアルを実施



東南アジア/オセアニア

Sub6 : 2020年中に豪州、タイ、フィリピン等で
5Gサービス開始
ミリ波 : 豪州では2021年5月にサービスを開始



韓国

5G加入者は1,584万人(2021年5月末)
Sub6 : 基地局は11.5万局設置済。人口カバー率90%超
ミリ波 : 2020年サービス開始予定が延期、開始時期未定



US

5G加入者は1,996万人（2020年12月末）
Sub6 : ベライゾンがCバンドを使うサービスを2022年
1Qに開始。2022年3月までに1億の人口を
カバーする計画
ミリ波 : ベライゾンは2021年末までに1.4万サイトを
3万サイトまで拡張



日本

5G加入者は1,419万人（2021年3月末）
Sub6 : 全国47都道府県の主要都市をカバレッジ
ドコモは2021年3月末までに基地局累計2万局
設置（LTEは25万局設置済み）
ミリ波 : キャリア4社が2020年後半からサービス開始済

* 出所 : 一般公開情報を参考に当社作成
2021年7月時点

提供するサービス

シミュレーション解析サービス

- ・ローカル5Gのエリア設計に必要な電波伝搬シミュレーション
- ・干渉調整、エリア検証・設計のコンサルティング

測定サービス

- ・ローカル5G導入現場における、干渉評価、エリア実測、基地局性能評価、ネットワーク評価
- ・基地局設備や端末のベンチマーク支援

ラボ見学・利用サービス

- ・Anritsu 5G LABを活用し、ローカル5Gの活用方法や品質保証手法の理解を促進
- ・実際のローカル5G環境を利用した実証実験の環境と機会を提供

調印式



アンリツ株式会社
社長 濱田宏一

株式会社構造計画研究所
取締役会長 服部正太

4-4. Anritsu 5G LABの紹介



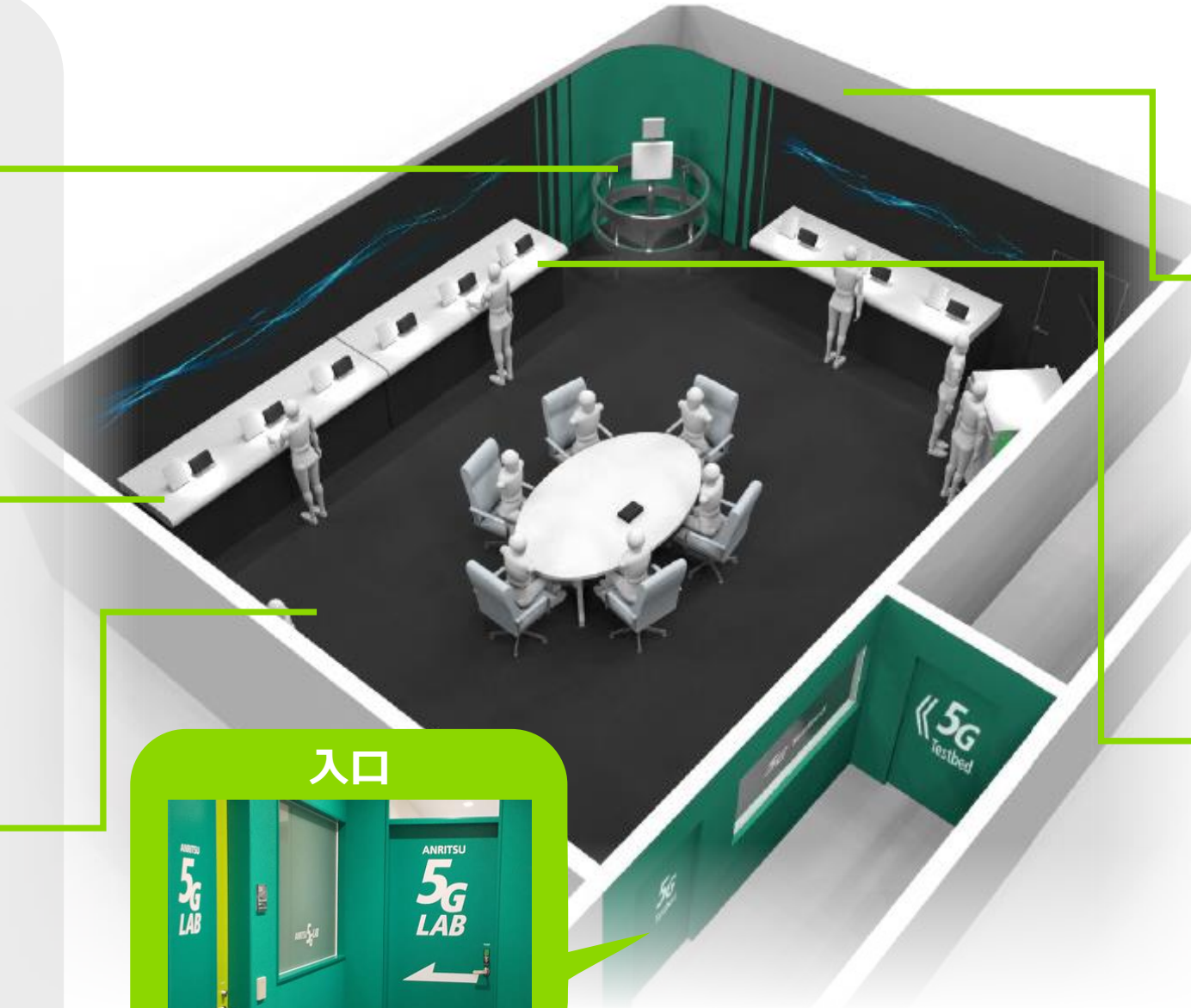
5Gミリ波、LTE基地局



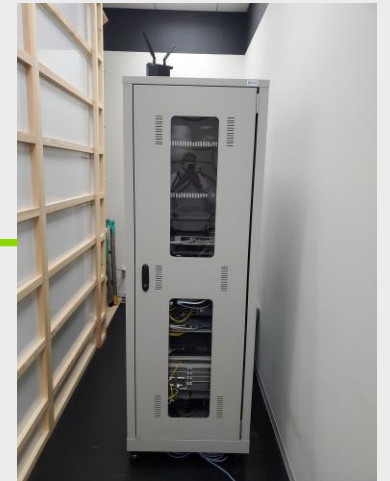
5G測定器のラインナップ



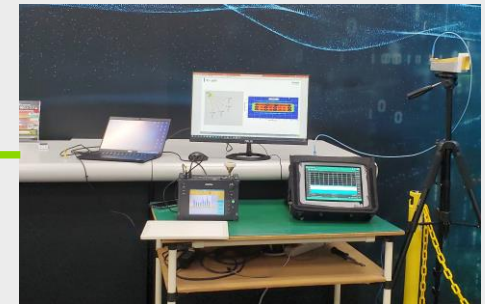
4K高精細映像による
5GとWi-Fiとの比較



入口



5G基地局装置



ローカル5Gの電波測定

